

2173再構築 27

チャライ男に

勝つ方法

エリー

本文

本「議論のレッスン」を153ページまで読んだので、練習に書いたもの。

「女にチャホヤして女の意見を尊重して、男の主張をないがしろにするチャライ男がいるから女が図に乗る」は、流れてきたツイートを要約したもの。

一つの主張に一つの結末を用意する。

どう関わりがあるのか、説明する役割を示す。

不要なことは入れない。

そんな点に注意して何度か推敲して書いたもの。

「女にチャホヤして女の意見を尊重して、男の主張をないがしろにするチャライ男がいるから女が図に乗る」という主張を聞いて、その対応に勝ち、女を納得させる方法を考えてみた。

「女子ども」と一緒にされる、「子どもの視点」から「女」を見ると問題点が分かってくる。

子どもは感情的な生き物だ。

感情というのは、自分の体に自然にわくものなので、ウツになったり、恐怖で委縮したりしてないかぎり、すぐに気づく。

「お菓子が食べたい」は感情だ。

そう感じていることは、本人には確かなことだ。

それにたいして、「した方がよいこと」は、人によって判断が異なる。

「12時にみんなで食事をするから今はダメ」と理屈で諭されて納得する賢い子どもは反抗しない。

「そんなことより今、現に空腹である事実をどうにかしたいのだ」と感情を主張し続ける子どもらしい子どもは反抗する。

「食べてもよい」と考えているのに叱られたら、子どもは理由が分からない。なぜ、どうしてと聞いてくる。どうしたら通るのか粘り続ける。

そこで、「じゃあ、これ一個だけ」などと折れることもあれば、「聞き分けのないわがままな子はうちの子じゃありません！」と恫喝するなど対策はいろいろある。

基本的に、小さいころは、理由が分からないので理屈を説明する。

実際にどうなるかやらせてみて、失敗から反省して自制できるようにしようとする人もあるが、「どうしても守らせなければならない状況」というのは他人と関わる場面で出てくる。

だから、「今、この条件では、どうしてそれが許されないのか」を説明することになる。

その理屈を受け入れて、自分をコントロールできるようになった子どもは、だんだん聞き分けがよくなる。

ところが、理屈は分かっているが、「悪いと分かっているけどできないんだ」と言い出す時がくる。

その時は、理屈を教える親としての役割は終わる。

「分かっていない=子ども」から「分かっているけどできない=弱さ」となり、どこまでどう付き合うかが問われる。

では、女のわがままは、理屈が分からないからいうのか、悪いことだと分かった上で押し通そうとしているのか？

どちらと考えるかで対応は変わってくる。

言葉で説明されて理解できなくても、他人がしているのをみたり、親から自立して自分の思い通り生きてみて失敗すれば、どうしてそれが駄目なのか身を持って知ることになる。

「女の子」から「女」と言われる年齢に達していたなら、理屈を知らないとは考えにくい。

つまり、女は理屈が分からないからわがままを言うのではない。
わがままだと分かっているからおかつ通したいから言う。

世間一般から見たら許されないことだ。

しかし、わたしだけは特別だ。

そういう風に甘やかしてくれる人に甘える。

ところが、甘やかせることが常になってしまったなら、それは特別なことではなくなり、当たり前のことになってしまう。

だから、いくら同じ方法で甘やかしても、「甘えた」という満足感が得られない。

お互いに、わがママがどこまで通るかためしている最中の若い男女の集まりの中で、女にとって、「自分の意見を真っ先に主張する男」がたまにいるから、「その男を抑えて、女の意見を優先してくれる」が起こり、「この人いると都合がいい」とチャライ男が価値を持つ。

理屈を分かっているやっっているのだから、道理を説いても状況は改善しない。

「女ばかりずるい」などと言い返したら、女の目には自分以上に子どもにうつる。
ずるいことなど分かっているのだから。

わがまま放題は、一見無敵に見えるが、弱点がある。意外に自信がない。

やっちゃいけないことをやっているから、この先どうなるか分からない。しかし、今さらやめられない。そんな宙ぶらりんの状態に置かれている。

そうすると、若いから、かわいいから、など納得できる理由を探す。

理由が見つかると一旦は安心するが、若さを失ったら、かわいくなくなったら、と失う恐怖を感じ始める。

もし、「理由などない。変わらず大切にされる」と信じられたなら、それは大きな価値を生む

。

この人とは、遊びの場だけでなく、日常的なつき合いがしたい、と思わせる。

「こんなことを続けていいのだろうか？」という疑念に、どんなことを続けて、何をしてはいけないのか、意味があると信じられるルールを確立して守ってくれる男を女は探しているのだから。

つまり、チャライ男に勝つ方法は、見せかけのやさしさではなく、本物の優しさを示すことと言える。

「俺はこれだけでいいけど、お前はここまではしてあげられるから自由に選べよ」と「自戒しつつ、甘えを許す」という大人らしい男に女は弱い。

そういう男になったら無敵だ。

ここまでが練習で書いたこと。

以下はオマケ。

男から女を見たら、「わたしのことはいいの、あなたの幸せがわたしの幸せなの」という母性を感じさせる女に弱い、となるのだろうか。

チャライ男VS都合のいい女、みたいなの。

「自分のわがまは全部通したい！」という人は少数派。

「相手の要望を受け入れつつ、自分の要望を通したい」が多数派。

多数派にとって、「これだけ守られればいから、あとは好きに決めて」と言われたら楽になる。

「全部あなたの好きにしていよ」は、どう思われているのか分からなくて不安になる。

「これだけ」が異常にでかい要求だと「なんだコイツ」と思う。

しかし、聞き入れられる内容で、「そこさえ押さえたら満足してくれるんだ」と分かったら接しやすい。

だから、「基本ラインを作り、それを守ってくれる保守的な男」は、結婚相手として高評価になる。

世話しやすいから。

「なんでも言うこと聞くよ〜」では生活が成り立たないことが分からないほど女はバカじゃない。

遊びの相手と結婚を意識する相手は違う。

チャライ男は遊びの相手としては最適だけど、結婚相手としては頼りない。
だから、結婚を意識させる男になることで、好意を勝ち取れると思う。

真面目にお付き合いすることが前提ではなく、一回お願いしたい、という刹那的な欲望を満たすためなら、チャライ男が一番強い。

遊びの場では、気前よく甘やかしてくれる人が最強だ。

自制的な人同士が、対等な関係を築いて、目的を共有して、どう判断するか話し合う環境があれば、幸せな家庭が築ける。

基本がなんで、なぜ特例としてそれを認めるのか、はっきりしたルールがあり、ルールを守ることを認めているなら、価値観を共有できるから。

どちらかが自制的でないなら、争いの絶えない辛い家庭になる。

どちらも自制的でないなら、家庭生活は破たんする。

男の役割として「ルールを体現する」というものがあつた。秩序を築く。

女の役割として「とりなしをする」というものがあつた。弱い人をかばう。

それは実際の女や男とは関係がない。得手不得手がある。

女が家計を握り、男がとりなしをする家も多い。

秩序を築くこともせず、弱い人をかばうこともせず、子どものままのわがままを通して言いたい放題をしたら楽しいだろう。

しかし、決して尊敬されることはない。

バカにされる、がわがままの代償。